

令和4年度 山梨県立白根高等学校

第4回 学校運営協議会 議事録

日時：令和5年2月14日（火） 15：15～16：45 本校白朋館ホール

1 開会のことば（教頭）

・配布資料確認（五味委員、北村委員欠席）

2 校長あいさつ

本校の教育活動へのご協力、まことにありがとうございます。本日は実質3回目の協議会となりますが、本年度は今回で最後となります。

学校評価アンケートへのご意見、ありがとうございました。皆様が資料によく目を通していただき、本校の実態をご理解いただいていることを感じました。

新型コロナの影響は相変わらずですが、5月には取扱いが「5類」に変わります。とはいえ対応を厳しくすることは簡単であっても、緩和することはなかなか難しい面があります。

前回の協議会以降の状況をお話いたします。生徒は若干の移動があるなかで、全校376名。来年の定数も130人名と、定員に変化はありません。

今年度は教育活動を極力停めないことを目標にしてきましたが、インターンシップについては苦渋の決断の中で見送ることとなりました。今の2年生は昨年度スキー・スノーボード教室もキャンセルになってしまったこともあり、修学旅行は是が非でもという思いを持っておりました。夏休み、ウエイト部がインターハイ団体5位、望月選手は個人で優勝、団体でも1位という快挙を成し遂げました。また学校説明会、オープンスクール、スクールツアーと、今年度は学校を紹介する行事はすべて実施することができました。体育祭も実施され、委員様にも見学にいらしていただきました。10月31日には、39周年記念式典とアフリカ音楽の芸術鑑賞会が実施されました。有志の生徒や若い先生の飛び入り参加もあり盛り上がりました。11月、修学旅行で沖縄へ行きました。生徒は大変喜んでおりました。平和学習のなかで戦時中の話を伺いました。また1年生はフィールド・デイに参加してきました。桂原様を通じてこの計画を進めさせていただき、事前の学習会にかかった費用やバス代も市の支援をいただくことができました。PTA 行事としては、クリスマスケーキ教室、そして金丸様に中心になっていただいたペンキ塗りが行われ、駐輪場が綺麗になりました。

3年生の状況については、今年度の皆勤賞は25名。コロナ禍ではありますが、5人に1人が皆勤賞をもらえそうです。進路実績も順調です。現在は学校をあげて、国公立大学や私学の一般入試に向けて努力している生徒の支援をしているところです。

先週、スキー・スノーボード教室が実施されました。生徒は大変満喫した様子でしたが、大雪により道路網が麻痺、帰りは5時間20分かかりました。

この2年間、教育のICT環境が大きく前進しました。本年度1年生からBYODを取り入れ、また全生徒がClassiというアプリを学習ツールとして利用しています。先生方に対してはICT支援員を中心にたびたび研修会を行っているが、まだまだな面もあるのが現状です。

この1年間、貴重なご意見、ご尽力をありがとうございました。本日も来年度に向けて、貴重なご意見をいただければ幸いです。

3 教育活動報告（学校側説明）

1 学習支援グループ（資料P1参照）

本年度1年生は、県外の生徒はいない。

2 生徒支援グループ（資料P1～2参照）

県内でも有名なスクールカウンセラーの先生に来ていただいている。

3 進路支援グループ（資料P2～3参照）

進路内定者について。国公立大学5名、私立大学46名、短大は例年より少なく7名、専門学校49名。ヴァンフォーレの生徒が有名大学に進学している。

4 学校管理グループ（資料P4参照）

就学支援金はほとんどの生徒が受給している。就学給付金は例年10名程度だったが、一昨年、昨年と30名程度に上っている。経済的に厳しい状況が伺える。

昨年学校設備の老朽化をご指摘いただいたが、なんとか予算を確保して様々な改善に取り組んでいる。

5 生徒指導グループ（資料P5参照）

今年度の状況について。交通事故は昨年度並み、問題行動については増加。防災避難訓練については、教頭が担当していたが、コロナの影響で地域との交流ができず中止。来年度以降の活動に持ち越したい。

6 情報管理グループ（資料P5参照）

特にホームページは充実している。県内だけでなく県外からもアクセスがある。

4 <議事> 議長：川野会長

①学校評価アンケートおよび山梨県立学校評価システムについて

(資料 P 9 ～ 1 7 参照)

P 9 学校評価システムについて、県立学校はすべてこのシステムに則って評価をしなければならない。そこで委員様にシートによる学校評価をお願いしている。(結果はP 1 1 参照) 学校経営については「達成できた」という回答がほとんど。教科指導については、家庭学習に関する項目の評価が厳しい。生徒指導については、ほぼ「達成できた」評価をいただいたが、地域における活動への参加については評価が分かれている。特別活動については良い評価をいただいている。学年関係・図書・進路関係についても高い評価をいただいている。その他ご意見として、生徒・教職員に人間としての軸ができているというご意見をいただいた。またアンケートのなされた方について、評価の基準(数値)が必要ではないかというご意見もいただいた。P 1 2 以降は記述方式での回答をまとめたもの。

「領域名 1 学校の基本的な目標・方針の設定に関する領域」委員の皆様には高評価をいただけた。

「領域名 2 学校評価に関する領域」アンケート結果をふまえて、各会議や職員会議において共通理解を図った。

「領域名 3 地域との連携協力に関する領域」インターンシップが中止になったことは残念だが、初めての活動であるフィールド・デイが実施できた。

「領域名 4 教育課程に関する領域」生徒の実態に合わせて、よりより教育活動を行ってきたい。

「領域名 5 生徒指導・進路指導に関する領域」挨拶のすばらしさをおほめいただけている反面、ここ数年は挨拶ができなくなっているのではないかと感じられる部分もある。

「領域名 6 その他の領域」

最後のとじ込みページについて、委員の先生方に外部評価をいただきたい。一言ずつでかまわないので、ご意見をいただけたらありがたいです。資料を切り取って手書きで入れていただくか、メールでの回答も可能です。

②来年度の活動計画について（資料 P 18 参照）

1 年生は地域を知る活動と住み続けられる町づくりについて。新しい取り組みとしての「観光甲子園」への参加も検討中。2 年がかりでの参加を考えている。修学旅行の行先として SDG s の目標達成と絡めながら、市の方にも支援をいただいての活動を予定している。2 年生はインターンシップを中心とした体験・発表学習。3 年生は進路学習。

桂原委員：フィールド・デイは継続を。発掘調査は難しいかもしれないが、エコパでの野外活動は重要。私も当日行って見てきたが、大変良い体験だった。観光甲子園については校長先生と詳しく詰めていきたい。市として観光政策には力を入れていきたいところ（シティプロモーション推進）なので、若い世代が情報発信するような取り組みは歓迎したい。市への来訪者の満足度を上げるために、高校生の力を借りたい。ぜひ具体化をお願いしたい。自分自身もできるだけバックアップしていきたい。

内藤委員：山梨大学で、地域に埋もれている様々なものを見つけ出して、地域の PR に使っていくような活動をしている。そういった活動との繋がりも必要ではないかと思われる。

→「案」を承認

③その他

別紙資料参照。地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの関係について。前回の会議で、コミュニティ・スクールの活性化について提案したが、予算の有無が問題になった。学校運営協議会以外に、地域の方や保護者を交えた地域学校協働本部を立ち上げるのか否かを検討していきたい。吉田高校は来年から動くとの情報もある。

桂原委員：「設置する」ことを誰が決めるのか。吉田高校はどのような過程で設置することになったのか知りたい。PTA からの声なのか、学校側が主体的に動いたのか、県からの指示なのか。

教頭：学校主体というよりは、地域からの声や県教委からの声かけが大きいと思われる。

川野議長：吉田高校では具体的にどのようなことをするのか。

教頭：総合的な探究の時間を使って、地域との関わりを持っている。富士吉田市の商工会議所と連携の協定を結んでいるようだ。

飯野委員：かつて小中学校で「学校応援団」が立ち上がった時期があった。

今津委員：小中学校でもコミュニティ・スクールが入ってきている。町と学校の協働活動についていくつか課題を設けて取り組んでいる。

飯野委員：コミュニティ・スクールが忙しいことで、学校の負担になってはよくない。現状あるものを新しい視点で見直すことが必要ではないか。「学校応援団」の組織も文科省のお声がかりによるものだった。大変な苦勞を伴いながら新しい組織をつくらなければならないのは相当な負担になることが予想される。そうならないように、実りある組織を考える必要があるのではないか。本校には古くからインターンシップがある。こういった活動を新しい視点で見直していくことも必要ではないか。負担にならずに楽しくやっていけるようなコミュニティ・スクール、地域学校協働活動にしていく必要があるのでは。

川野議長：企業でもいまSDGsが求められている。しかし中小企業には難しい話で、むしろ生徒のほうが詳しい。生徒と繋がることで企業にとってもプラスになる面がある。

桂原委員：組織をつくる利点もあるが、硬直化するきらいもある。今すでに繋がっている部分もあるので、そこから学校と地域との連携を進めていければよい。組織化にこだわらなくても、今取り組んでいる部分を深化させていければ良いのでは。ネットワークを活用していけば、自然と組織図のような形になっていくのではないだろうか。

校長：来週の水曜（22日）に、1年生が職業人講話に参加する。その際も市には人材の紹介という点で大変お世話になっている。南アルプス市のガイドブックを今年も協働で作る（今年はパン屋さん特集）が、そこでも市の支援をいただいている。表立って見えない部分ではあるが、すでに市との連携はなされている。皆様の意見を聞くかぎり、組織化にこだわらなくても良いのではと思っている。

5 意見交換・懇談

金丸委員：保護者の立場から話したい。進路支援について、合格者の受験形態は総合・推薦型が95%を占めている。こういった形態にさらに深く対応していけるように、外部の指導を入れても良いのでは。

秋山委員：来校する機会も多く、部活動の様子などよく見せてもらっている。今の3年生は男女比のバランスが良いが、1・2年生は女子が多い。そのためか、部活動にあまり元気がない気がする。運動部の男子たちが盛り上げていくような元気がほしい。女子が増えているということは、女子が活動できるような部を考えていく必要があるし、また男子を呼べるような特色づくりも必要ではないか。なるべく男子が魅力を感じるような学校づくりをお願いしたい。

今津委員：協議会の委員なので責任をもって取り組みたいと思っていたが、なかなか携われない場面もあった。今回フィールド・デイの活動を知ったが、こういった活動の大切さを実感することができた。コミュニティ・スクールの活動が学校の疲弊に繋がらないように、先生たちが行っていたことを地域の人たちが担う・地域の教育力を上げていけるような活動にしていければ良いのではないかな。

内藤委員：久しぶりの授業参観だったが、だいぶIT化が進んだことを感じた。理系に女子は少なかったが、いわゆる「リケジョ」も必要とされるのではないかな。白根高校は規模の小さい学校だが、地域との連携がキーワードになってくる。コミュニティ・スクールにはいろいろな形態があって良い。「連携」というのを一つの核として広げていけば、地域とともに歩むイメージが広がる。協力してもらえる人材を増やして、もっとイメージを広げていけると良い。

川野議長：来年度の役員はどのようになるか

校長：以前の組織（学校評議委員）には任期があったが、現委員には任期がない。来年度の活動が厳しい方はお知らせください。

教頭：新年度に改めて申請をする必要があるが、引き続きお願いできれば大変ありがたい。

6 諸連絡

本日の会議の結果をふまえ、学校教育目標が達成できたかどうか、評価およびご意見をお願いいたします。来年度4月（3週目？）に第1回の協議会を開催する予定です。学園祭期間中の協議会開催は難しく、学園祭には参加をいただくということで、来年度は3回の協議会を予定。（4月・10月・2月）

校長：来季については、可能な限りご協力をいただけたらありがたい。委員の皆様は本校のことを本当にご理解いただいている。本校の活動は大学との繋がりが弱い部分があるので、今後考えていきたい。

7 閉会のことば（教頭）